

滿洲人 一三三、七二二
 外國人 九八、二二

尙、同じく昭和十四年十二月末現在の大連、旅順兩市の人口は次の如くである。

大連市

人 口 女百に付男

總 數 五七二、三三三

内、内地人 一六九、九五三

朝鮮人 四、三五八

滿洲人 三九六、三七一

外國人 一、五五〇

旅順市

人 口 女百に付男

總 數 三三、二三五

内、内地人 一二、四九九

朝鮮人 一四六

滿洲人 二〇、五七六

外國人 一四

昭和十四年十二月末現在滿洲帝國

戸口統計

滿洲帝國政府の發表になる康徳六年(昭和十四年)十二月末現在の滿洲帝國戸口統計の中主要なる數字を掲ぐれば次の如くで、總人口四千萬突破も近きを思はしめる。

昭和十四年十二月末	前年末に比し増減
全戸數 六、四四七、五九四	(+) 一三七、〇九六
總人口 三九、四五四、〇二六	(+) 八三〇、三八六
内、男 二二、五三〇、九五七	(+) 四七〇、三三六

女 一七、九三三、〇六九 (+) 三六〇、〇六〇
 内、滿洲人 三七、五八一、八三三 (+) 六〇二、三七八
 朝鮮人 一、二六二、二二七 (+) 一〇五、八一九
 内地人 六四二、三五六 (+) 二〇、一六七
 外國人 六七、七二〇 (+) 二、〇三二

尙、康徳五年(昭和十三年)十二月末現在人口五萬以上の滿洲帝國主要都市人口を掲ぐれば次の如くである。

滿洲帝國主要都市、市街地人口

(昭和十三年十二月末現在)

都邑名	總人口	内、日本内地人	總人口千人に付
新京特別市	三七八、二四二	八二、二一七	二七・二
吉林市	一三一、一三三	一〇、九二五	八・三三
扶餘	五五、〇一八	一五・八	二・八
齊齊哈爾	九七、四五五	九、五六〇	九・一
佳木斯市	七六、八一三	五、八五三	七・六二
牡丹江市	一〇一、九三六	一四、九五一	一四・六七
哈爾濱市	四六〇、二〇六	二八、二三八	六・四
雙城	五二、五五三	二〇〇	三・八
奉天市	八一〇、四六五	一〇〇、八二二	一二・四四
撫順市	二二一、四三五	二七、九三四	一二・六一
本溪湖	七〇、八五三	四、六八八	六・六二
遼陽市	九二、五五八	五、一七五	五・五九
鞍山市	一三七、一五四	三一、五四五	二二・〇〇
營口市	一五九、六六〇	五、五九九	三五・一
鄭家屯	五〇、二〇九	九九一	一九・七
四平街	五六、一一二	七、〇三五	一二・五四
錦州市	一〇八、二二〇	九、八九七	九・五

大獨逸の總人口

ポーランドの國家的崩壊と獨逸協定による其の勢力圏の決定後、獨逸は其の一部を獨逸領に編入すると共に行政區劃の變更をも行つたが、之に先立ち既に獨逸本國へ編入されたる舊ダンチヒ自由市と併せて獨逸は約一千萬の人口を加へ、ポーミア及びモラビアの兩保護領を除く總人口は約九千萬に達するに到つた。獨逸統計局の公表になる其の數字を掲ぐれば次の如くである。(Wirtschaft u. Statistik Nr. 12. 1940)

獨逸東部地方の新區劃別面積及人口

全	面積 (單位方里)	人口 (口)
獨逸領となれる東部地方	六八、一六〇	八、九六六、〇〇〇
内、舊ダンチヒ自由市	一、八九三	一〇、〇三五、〇〇〇
舊波蘭領	九一、九七四	九、六二七、〇〇〇
獨逸領となれる地方	三八九、四三七	三二、一四三、〇〇〇
内、獨逸領となれる地方	一八八、一八五	二〇、二一九、〇〇〇
占領中の波蘭領	九五、六二五	一〇、五六五、〇〇〇
スロバキア領となれる地方	五八六	二七、〇〇〇
ソ聯邦勢力圏	二〇二、二五二	二、九二四、〇〇〇
内、リトワニア領となれる部分	六、七〇四	四二六、〇〇〇

(1) ポーミア及モラビア(面積四八、九五九方里、人口約七百萬)を除く。(2) メーメル地方を除く舊獨逸領は一九三九年五月一七日の國勢調査(速報定住人口)、メーメル地方は編入人口、舊ダンチヒ自由市は一九二九年八月一八日の人口調査、舊ポーランドは一九三一年一月九日の人口調査、オイペン、マルメラー及びモレスネーは一九三〇年二月三十一日の人口調査に依る。